

第2回北海道食の安全・安心委員会における各委員の主な発言と反映状況

項目	ご意見	対応	委員
I 北海道クリーン農業推進計画(第7期)について			
1 計画策定の趣旨	食の安全・安心は大いに進めるべきである。生産者は取り組むメリットがないと実践しないので、この計画を実現する具体策が必要ではないか。	SDGsなどの動きに伴い、消費者や流通販売業者から北海道農業が評価・支持されるためには、持続可能な農業・農村を支えるクリーン農業を推進することが重要と考えます。 クリーン農業の推進にあたっては、消費者へ安全・安心な農産物を供給することはもちろん、技術の開発・普及、YES!clean登録集団間の技術交流など様々な活動の中で、生産者にもメリットが感じられるよう取り組みます。	菊谷委員
III クリーン農業の現状と課題			
6 国際水準GAPの推進	クリーン農業で生産した農産物の残留農薬が慣行農法と比べて数値として少ないのであれば、消費者へアピールできるのではないか。	適正に使用した農薬は安全性に問題ありませんので、本計画では、農薬の適正使用を確実にを行うために効果的な国際水準GAPの取組を推進します。	川合委員
IV 施策の推進方針と展開方向			
1 クリーン農業への理解の促進	給食での利用促進は、子供から家庭(親)への波及も期待できるので大切である。中学生や高校生への食育にも取り組んで欲しい。	食育の取組と併せて効果的な理解促進を進めるため、小・中学校、高校、大学などにおける出前講座の実施や、給食や学食と連携した取組、地域イベント等の活用など、それぞれの世代に対して効果的なPRを進める旨を記載しました。	吉田委員
	北海道農業・農村情報誌など素晴らしい資料を作っているの、多くの人に知られるよう、小売店舗など主婦層の目に見えるところに配置するとよいのではないか。	SDGsなど持続的社會づくりが求められる中、農業者や流通・販売事業者、消費者に対して、分かりやすいパンフレットなどを活用してクリーン農業の重要性を伝える活動を推進する旨を記載しました。 推進にあたっては、ご意見を参考に効果的なPRの実施に努めます。	武岡委員
	大学生の耳に入るような広がりのあるアプローチが必要である。	食育の取組と併せて効果的な理解促進を進めるため、小・中学校、高校、大学などにおける出前講座の実施や、給食や学食と連携した取組、地域イベント等の活用など、それぞれの世代に対して効果的なPRを進める旨を記載しました。	白幡委員
	イメージキャラクターとは何か。	イメージキャラクター「ハタケダ博士&くりんだね」を活用し、消費者が親しみやすいPR活動を展開する旨を記載しています。 (参考:別添資料)	白幡委員
	SDGsなどを意識したつくる責任や多少高くても買う責任などを、皆で考えて運動していくことが必要である。	SDGsなど持続的社會づくりが求められる中、農業者や流通・販売事業者、消費者に対して、クリーン農業の重要性を伝える活動を推進して、クリーン農業への理解を促進する旨を記載しました。	箱石委員
	クリーン農業は、健康面や環境面に良いということは知っているも、温室効果ガス削減までは一般的に知られていないので、PRして理解を進めるべきである。	クリーン農業による温室効果ガスの発生抑制や生物多様性保全の効果などを、広く消費者や流通・販売事業者が発信して理解を促進します。	畠山委員

項目	ご意見	対応	委員
IV 施策の推進方針と展開方向			
2 クリーン農業技術の開発と普及	<p>クリーン農業実践には取り組みやすい地域と取り組みにくい地域があると思うので、そのようなことを考慮したらよいのではないかと。</p>	<p>地域の条件に即し安定したクリーン農産物の生産に向けた農業技術の開発と普及を推進します。</p>	森委員
	<p>農業者が取り組みやすいよう科学的な根拠や技術開発に基づく指導としており、大変良い。</p>	<p>北海道立総合研究機構と連携しながら、新たな課題等に対応し、地域の条件に即し安定したクリーン農産物の生産に向けた農業技術の開発と普及を推進します。</p>	川合委員
	<p>いつもおいしい農業者の農産物が農法を変えたために味が落ちた。農法を変えた時のリスクへのフォローアップが必要である。</p>	<p>農業者が有機農業を含むクリーン農業を円滑に導入できるよう技術資料を作成・配布するとともに、関係団体と連携して作物別研修会を開催するなど農業者間の情報交換を促し、技術の普及を進めます。</p>	濱本委員
	<p>JAグループとして、クリーン農業やGAPに取り組んでいる。生産者にとっては生産性の向上、所得の確保が大切であるので、クリーン農業の推進には、例えば環境制御型ハウスに対する支援や、規模拡大を進める自動操舵トラクターなどへの助成も併せて進めるべき。</p>	<p>これまで馬鈴しょの茎葉処理機や水稲の温湯消毒機の導入支援などとともにクリーン農業を推進しています。今後も農業者のニーズを十分に把握しながら、生産性向上や経営安定対策も含め各種施策を活用して、クリーン農業のより一層の普及を進める旨を記載しました。</p>	箱石委員
	<p>環境保全型農業の取組を拡大するには補助金などの支援施策が必要である。</p>	<p>「環境保全型農業直接支援交付金」などを活用して、クリーン農業のより一層の普及を進める旨を記載しました。</p>	大塚委員
3 YES!clean農産物の拡大	<p>実際に販売していることが一番のPRであり、お母さん方に訴えることが大切である。 全ての小売業者での展開は難しいだろうが、モデルケースとして、YES!cleanの販売コーナー設置などができないか。</p>	<p>流通・販売事業者と連携しながら、店頭でのYES!cleanマークの表示を働きかけるなど、YES!clean農産物の安定した販路拡大を進める旨を記載しました。</p>	藤井委員
	<p>YES!clean加工食品はどのようなものがあるか。</p>	<p>北見市常呂町の小豆を使った餡や白糠町のごぼうを使ったごぼう茶、ニセコ町のうるち米を使用したシフォンケーキなど、令和元年(2019年)12月現在、10社、32商品のYES!clean加工食品が販売されています。(参考:別添資料)</p>	川畑委員 島山委員
	<p>YES!cleanのジュースやペーストなどがあると幅広く食品産業で生かせるのではないかと。</p>	<p>YES!clean加工食品の取組拡大に向けて、YES!clean登録集団や関係団体と連携して食品加工業者へのPRを推進します。</p>	稲田委員
	<p>YES!cleanマークをもっと普及するため、どうやって商品に付けていくのか検討が必要である。</p>	<p>流通・販売事業者と連携しながら、店頭でのYES!cleanマークの表示を働きかけるなど、YES!clean農産物の安定した販路拡大を進める旨を記載しました。</p>	稲田委員

項目	ご意見	対応	委員
IV 施策の推進方針と展開方向			
3 YES!clean農産物の拡大	消費者の購入時には、箱から小分けされてマークが表示されなくなる課題に対して、生産者段階での袋詰めや流通業者に理解してもらうことが必要である。	SDGsなど持続的社會づくりが求められる中、農業者や流通・販売事業者、消費者に対して、分かりやすいパンフレットなどを活用してクリーン農業の重要性を伝える活動を推進します。 また、流通・販売事業者と連携しながら、店頭でのYES!cleanマークの表示を働きかけるなど、YES!clean農産物の安定した販路拡大を進める旨を記載しました。	畠山委員
3 YES!clean農産物の拡大 4 有機農業の拡大	例えば有機野菜の良さを消費者に伝えるため、具体的な食材の組み合わせや、有効な調理方法などをPRできないか。	YES!clean農産物や有機農産物のPR活動に当たり、料理教室や調理方法の周知などにも取り組んで消費者の理解を醸成する旨を記載しました。	川畑委員
4 有機農業の拡大	有機農業では、販路確保が重要である。	有機農産物等の安定的な販路を確保するため、有機農業の情報発信や需要喚起に取り組むとともに、農業者と流通・販売事業者の商談の場の提供など、効果的なマッチングを促進します。	大塚委員
5 国際水準GAPの推進	GAP認証を推進する際は、費用の問題もあるので、どの種類のGAPを推進するのか慎重に判断した方がよい。	クリーン農業の取組拡大に向け、農業団体とともに支援体制を整備して、地域の実情を踏まえた国際水準GAPの導入を促進します。	鈴木委員